医療法人善慈会　大分丘の上病院　広報誌

丘の上だより

VOL.52

令和８年
５月発行



目次

・院長先生の講演　…ｐ 2
・副院長先生の講演　…ｐ 4
・学会発表　…ｐ 5
・防災訓練　…ｐ 8
・地域活動　…ｐ10
・新任紹介　…ｐ11
・JAZZコンサート　…ｐ11
・治療実績　…ｐ12

法人理念

大分丘の上病院は、医療・保険・福祉を通して、人々の健康向上に寄与し、地域社会の発展に貢献する。

病院の基本方針

〇思春期から老年期までの精神医療と心身医療に広く取り組みます。
〇人権を尊重し、共に歩み、癒しをもたらし、再生を目指す医療を行います。
〇科学的な治療を、各職種のチーム医療で誠実に提供します。

帆秋善生院長が講演をしました

第20回　日本小児心身医学会　九州・沖縄地方会　in大分　2025年3月9日

第20回　日本小児心身医学会　九州・沖縄地方会（大会長：藤本小児病院　藤本保　先生）において 、帆秋院長が特別講演「思春期の身体症状と精神疾患発現の関連について ―不登校、摂食障害、自傷、PTSD、気分障害、統合失調症の臨床から―」を行いました。

当院の思春期精神科外来には、小児科から多くの子どもたちが紹介されてきます。
その多くは、不登校、摂食障害、自傷行為、PTSD、気分障害、統合失調症などと診断されますが、精神科医療の現場でどのような治療が行われているかは、小児科医にとって心配も含めて関心の高いテーマだと思われます。

院長は、当院開業以来35年間にわたる児童思春期精神医療の実践を小児科医に直接伝えられる好機と考え、以下の内容を紹介しました。
・香々地における不登校キャンプ治療
・教育委員会と連携した適応教室の取り組み
・摂食障害に対する自助的複合集団精神療法「コスモスの会」
・自傷行為や解離症状からトラウマを見出し、PTSD治療へつなげるアプローチ
・若年期の双極性障害・統合失調症に対する薬物療法および認知行動療法
・ガールズミーティングなどの集団精神療法

講演後は、久留米大学小児科から不登校キャンプ治療についての問い合わせ、熊本市の高野病院から心療内科医師・心理士の見学受け入れ、さらに小児科クリニックから児童精神科医の派遣依頼など、多くの反響をいただきました。

精神科医療における児童思春期領域の実践を小児科医の先生方へお伝えでき、大変有意義な機会となりました。

大分県北部保健所　こころの健康講座　2025年8月8日

大分県北部保健所および豊後高田市保健部主催の令和7年度こころの健康講座において、「若年層の自殺の理解と対応について」を講演しました。

本講演は、同年2月14日に大分県こころとからだの相談センターで実施した「若者自殺対策専門研修」での講演が好評であったことから依頼されたものです。
会場は遠方でしたが、院長にとって豊後高田市香々地での不登校キャンプが児童思春期精神科医としての原点であり、恩返しの思いを込めて登壇しました。

当日は、小・中学校の校長、養護教諭、教員、スクールカウンセラー、行政職員（精神保健・母子保健・児童福祉担当）など、多職種の方々が参加されました。

近年、若年層の自殺は増加しており、15歳から39歳では死因の第1位となっています。がんによる死亡の約3～7倍にも達しており、深刻な社会課題です。
若者の自殺は、早期にサインに気づき、声をかけ、本人の思いに寄り添いながら適切な支援につなぐことで、防げる可能性があります。

講演では、子どもの自殺に至る心理、学校現場で求められる対応、さらに症例を通じた具体的な支援や治療について解説しました。

大分いのちの電話　養成講座　2025年9月2日

「いのちの電話」相談員養成講座において、応募者を対象に「自殺に傾く人の心理とその対応」について講義を行いました。

大分いのちの電話　養成講座　2025年11月11日

同養成講座にて、「電話相談の実際 ―困難事例③（精神疾患、長時間対応、危機介入）―」について講義を行いました。

院長は平成2年より「いのちの電話」の活動に参加し、現在は理事およびスーパーバイザーとして、運営や相談員の養成・指導に携わっています。

相談員の減少が課題となる中、応募されたボランティアの方々に質の高い支援を担っていただけるよう、毎年講義を担当しています。

令和7年度医療と福祉の相互理解に向けた研修　2026年2月27日

令和7年度「医療と福祉の相互理解に向けた研修」において、「精神障がいを持つ方への対応について」と題した講演を、別府市ビーコンプラザ国際会議場で行いました。

本研修は昨年度に続く開催で、障害福祉サービス事業所（相談支援、就労支援、グループホーム、訪問介護）、訪問看護ステーション、精神科医療機関、行政機関などから約200名が参加されました。

講演では、統合失調症、うつ病、双極性障害、発達障害の特徴や治療、その効果に加え、患者さんが抱える苦しみや困難について解説し、適切な関わり方を紹介しました。
また、患者さんの地域移行の進展に伴い福祉現場での対応が重要性を増している現状を踏まえ、医療機関との連携方法や相談のポイントについても具体的にお話ししました。

参加者からは「非常に分かりやすい」との評価をいただき、実務に直結する内容として好評でした。

2025年度の歩みとこれからの展望　ほあき副院長

2025年から2026年にかけて、製薬会社主催の講演会に多数お声がけいただきました。1か月や2か月に1回と、私としてはハイペースだったと思います。実際に講演会を多数引き受けてみると、普段直接お会いすることのできない他院の医師や薬剤師の先生方と直接お話ができるほか、薬剤に関する知識だけではなくさまざまな臨床に役立つ技法を教えていただけるので、とても得るものが多く、今年も続けていきたいと思っております。

その中では当院でしている医療を紹介させていただくことも多かったので、ここで一部改めてご紹介させていただきます。

まず**統合失調症の治療について**です。近年統合失調症は軽症化し、そして患者数が減ってきています。これには様々な理由が考えられますが、そのうちの一つとして精神医療に対する国民の認識の変化だと思われます。精神科病院やクリニックへの受診のハードルが下がったことは喜ばしい一方で、軽症でありほかの疾患との区別のつきにくさが、臨床家の先生方を多く悩ませていることだと思います。その中で、副作用の少ない新規抗精神病薬をどのように使っていくか。あるいは、治療頻度を軽減し、再発・再燃を予防する持効性注射剤をどのように普及させるか。治療抵抗性統合失調症には速やかに**クロザピンでの治療を導入**するために、医療者側の意識付けをどのようにしていくか。当院だけではなく他院の先生方のご意見を学ばせていただく中で、上記の方針をいかに患者さんご本人や周囲の支援者とともに行っていくかを考える良い機会になりました。

うつ病や双極症と、退職・休職してしまった方への職場復帰についての支援については、当院でも**復職支援プログラム（リワークプログラム）**を行っております。リワークプログラムに関して、大分大学医学部精神神経医学講座　平川准教授とともに、双方の施設での取り組みや支援について学ばせていただく機会もございました。双方の施設の特色を生かし、より多くの労働者の支援を行っていくことで、社会貢献の一環となれればと思っております。

また、当院は患者数の半数以上を30代以下の若い患者さんが占めております。この世代は、**子宮頸がんワクチン**の接種対象年齢であるとともに、子宮頸がんの好発年齢でもあります。外国の研究では、精神疾患のある患者さんのうち、特定の要因のある方は子宮頸がんワクチンの接種率が低い、との研究結果も出ております。当院では子宮頸がんワクチンの接種を行っております。当院への受診のついでに、でも構いませんので、子宮頸がんワクチンを接種していただき、自分自身の身体をどのように守るか、これから先のライフスタイルをどのように自己決定していくか、を十分に考えていただける機会になれば幸いです。

当院では20年以上前より、患者さんだけはなくご家族やほかの支援者とともに、医療スタッフが一堂に会して、今後の方針を決めたり現在の状況を共有する**「合同面談」**というものを行っています。対象は全入院患者さんです。患者さんの治療目標は、ただ症状を抑えればよいのではなく、社会復帰や学業復帰、家庭生活やその後のライフスタイルなど、各個人で異なっています。ご本人や周囲の方の希望や認識を共有し、SDM（共同意思決定）を用いた治療戦略を行うことで、多方面からの支援を行えるようにしております。そのためには患者さんやご家族のご協力が必要となります。対面でのご参加が難しい場合は、zoomや患者さんのlineを用いたオンライン通話でも結構です。ぜひともご協力をお願いいたします。

さて今年は特に、**精神科以外の他科の先生との連携を密にしていきたい**と思っております。最近は片頭痛に関しておおば脳神経外科・頭痛クリニック、睡眠時無呼吸症候群に関して佐藤クリニックのご施設に大変お世話になっております。その他神経内科、婦人科、泌尿器科の先生方とも勉強会を予定しております。地域の医療機関で協力していくことが患者さんの利益にもつながってくると考えております。

今年も職員一同、無理なく楽しく自分らしく頑張っていきたいので、応援よろしくお願いします。

2025年度 学会参加レポート

第50回　日本精神科看護学術集会　in姫路　2025年6月7日、８日

「暴力抑止について」をテーマに研究発表してきました。精神科医療の現場では、一般病棟に比べ、患者さんによる身体的暴力の頻度が高いことは事実であり、職員が負傷したり、恐怖を感じたりする場面があります。

さらに近年では、身体的暴力だけでなく、「カスタマーハラスメント（カスハラ）」と呼ばれる言語的暴力や性的な言動（セクハラ）といった、精神的な暴力の報告も増加傾向にあります。

こうした暴力被害は、職員の心身に深い傷を残し、中にはトラウマとなり離職に至るケースもあります。また、他の患者さんからも「怖いので対応してほしい」といった切実な要望が聞かれるのが現状です。

従来、「精神科だから」「病気だから仕方ない」と職員が耐え忍ぶマインドもありましたが、時代の変遷とともに、職員の安全と尊厳を守るために、このようなマインドを払拭し、組織として毅然とした対応が求められています。

最悪の事態を防ぐためにも、当院は、単なる個別対応ではなく、組織的な包括的暴力対策が必要であると考えています。

状況によっては、警察への通報や、傷害罪、名誉毀損など法的な対応も視野に入れた検討を進め、患者さんと職員、双方にとって安全で安心できる治療環境の構築に努めてまいります。

看護師　こしょう





第43回　大分県病院学会　in別府　2025年7月27日

2025年は団塊の世代が後期高齢者となる節目の年であり、高齢化の進行が早いとされる大分県において、当院が果たすべき役割を改めて考える機会となりました。超高齢社会への変遷は、精神科病院にも同様に訪れています。

一般的に、高齢患者様は約4割が低栄養のまま退院し、肺炎等で入退院を繰り返す傾向にあります。この入退院の繰り返しは、患者様のQOL（生活の質）の低下や医療費の圧迫を加速させる深刻な問題です。

学会での学びから、この問題の改善には、入院初期からベッドサイドでの嚥下訓練や口腔ケア、ＡＤＬ改善に向けたリハビリに取り組むことが不可欠であると再認識しました。
当院では、高齢患者様の栄養状態をアセスメントし、医師・看護師・栄養士の多職種間での情報共有と対策に尽力しています。しかしながら、高齢者ケアの質を高めるためには、看護師の力をさらに発揮できる場面がまだ多くあると強く実感しました。

学会にて得た学びを今後の現場実践に活かしていきたいと思います。

看護師　しつかわ

先日開催された学会では、『超高齢社会の中の病院』をテーマに、午前は特別講演やシンポジウム、午後は一般演題やポスターセッション、企業展示等が行われました。
講演を通じて、高齢化が進む社会において、高齢者が良好な健康状態を維持するための病院の役割について深く学びました。

特に、治療においてリハビリテーションだけでなく、栄養状態の管理や口腔のケアが極めて重要であると強調されており、高齢者の食と全身管理の大切さを再認識いたしました。
新しい取り組みや変革には、不安や抵抗が伴うこともありますが、学会参加はそれを乗り越えるための重要な機会です。

他施設の先進的な取り組みや成功例を知ることで、「良い刺激」と具体的な見本を得ることができました。これは、自分たちにもできるやり方を検討し、組織をより良くするためのきっかけを与えてくれる貴重な場であると実感しています。
患者さんへのケアの質向上と、超高齢社会に対応した病院機能の強化に繋げてまいりたいと思います。

作業療法士　あべ

「摂食障害患者とその家族への集団療法の現状と課題～当院での取り組みを振り返って～」について発表させていただきました。当院で実施している摂食障害の集団療法「コスモスの会」について、28年間の変遷、参加者数の推移、運営体制の変化を整理し考察を行いました。様々な情報を収集する中で、現状に応じた会の提供をしていくことの大切さや、スタッフとして出来ることを明確にする重要性を改めて感じました。

今回の発表を通して、これまでの経過を振り返りながら、今後もより充実した会の運営や参加者の方々に役立つ取り組みへとつなげていきたいと考えております。本学会での発表経験は、支援の在り方を見直す貴重な機会となりました。今後も実践を重ね、より良い支援の形を探求していきたいと思います。発表にあたりご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

公認心理師　ふくなが



第50回　九州集団療法研究会　in大牟田　2025年11月22日

大牟田市で開催された「九州集団療法研究会」に参加してまいりました。 社会が複雑化する現代において、他者とのつながり、いわゆる「集団」がもたらす安心感がいかにストレスマネジメントに重要であるかを改めて学びました。特に、母性的な温かさを持って環境を整えることが、回復への大きな後押しになるという点は、日々のケアにおいても非常に大切な視点です。

分科会では「一人ひとりへのきめ細やかな対応」をテーマにした発表があり、精神科医療の多様化・複雑化に伴う業務の難しさを再認識しました。しかし、どれほど現場が難しくなっても、基本にあるのは「患者さん一人ひとりに寄り添う誠実な姿勢」です。「人は一人では生きていけない」という言葉を胸に、これからも皆様に安心をお届けできるよう、誠実な対応に努めてまいります。

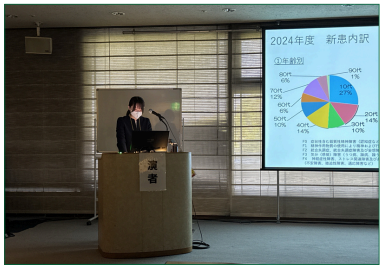


看護師　きしゃば

第70回　九州精神医療学会　in佐賀　2025年11月27日、28日

この度、当院で長年継続している摂食障害の集団療法『コスモスの会』について発表させて頂きました。

長期にわたる会のこれまでの経過と現状を整理し、今後の課題を深く考察する貴重な機会となりました。この知見を今後の治療の質の向上に活かしてまいります。



発表と合わせて、松本俊彦先生の基調講演では、若者における市販薬の過量服薬（オーバードーズ）の現状について学ぶことができました。特に、過量服薬を長期にわたって繰り返している方々の危険性の高さと、孤立を防ぐための『誰かと繋がりを持ち続けることの重要性』を再認識いたしました。

この貴重な学びを、日常の患者様との関わりの中で活かし、今後の臨床実践につなげてまいります。この度は貴重な機会をいただき、誠にありがとうございました。



公認心理師　さとう

防災訓練を実施しました

2025.10.16　実施

南海トラフ地震を想定して当院で防災訓練を休診日に丸一日かけて行いました

10：00　地震発生　院内放送



　初の全職員参加による防災訓練を実施しました。
　訓練は、緊迫感のある「緊急地震速報」の全館放送でスタートしました。
　あの独特な警報音に、職員からは「やはり緊張しますね」という声が聞かれました。

　揺れを感じた直後、職員はまず、
「最優先の初動対応」を実践しました。
安全な場所に身を隠す！転倒・落下の危険があるものから離れ、丈夫な机の下などへ避難することなど災害発生時に身の安全を守るため、「考える前に行動する」ことの重要性を改めて全職員で確認し合いました。



10：05　避難開始









　強い揺れがおさまったと想定される約5分後、次のステップである避難誘導を直ちに開始しました。

　今回の訓練で最も重要視したのは、「全ての患者さんを安全に誘導するために必要な時間」の計測です。患者さんの避難完了までの計測結果は13～15分でした。

　計測結果は今後の訓練計画やマニュアルの改善に活かしていきます。

10：10　対策本部立ち上げ

「対策本部」を迅速に立ち上げる訓練も行いました。

各部署から寄せられる被害状況の報告を集約し、それを基に本部がその後の対応指示を出すという、実践的な指揮・情報伝達の流れを徹底的に確認しました。





10：20　外来部での初動対応





外来部の職員は一斉に多岐にわたる初動対応の訓練をしました。

まず最優先で、患者様さんを安全な場所へ誘導し、出入り口の確保を行い避難経路を確立しました。

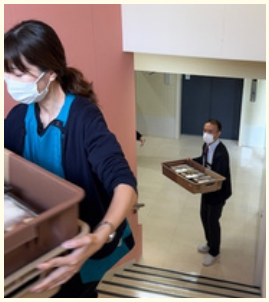
その後、来院中の患者さんや付き添いの方の状況を迅速に把握、非常用トイレの設置、現在の状況を示す張り紙を作成・添付、建物の被害状況を確認するための見回り等を行いました。

これらと並行して、患者さん役の職員に対し、被災直後の状況を想定した問診を実施しました。医師がトリアージ（治療優先度の決定）を行うために、正確な情報を迅速に収集し、共有する手順を確認する実践的な訓練でした。

11：30　配食

停電を想定し、階段を使ってお弁当とお水を運ぶ配食訓練も実施しました。

お弁当を頑丈なケースにまとめていたため、階段でのリレー方式でも安定し、スムーズに運ぶことができました





13：30　～　非常食調理・試食





万が一の災害時にも、安心できる食事を提供するため、この度、職員全員で非常食の調理練習と試食会を実施しました。

今回使用したのは、尾西食品の「アルファ米 炊き出しセットドライカレー50食」です。

調理器具や容器がセットになっており、お水さえあれば、誰でも簡単に大勢の食事を用意できました。

『いつ起きてもおかしくない』巨大地震に備える！
～当院の安全対策と行動指針～

日本では、マグニチュード6.0以上の地震の約2割が発生していると言われています。近年、将来大きな地震を引き起こす可能性のある活断層が複数指摘されており、その中には南海トラフを起こすとされる活断層も含まれています。

政府は南海トラフ地震の予測手法を見直し、「30年以内の発生確率は60～90%程度」と発表しました。参考までに、記憶に新しい熊本地震（M7.0級）の発生確率は、発生前は「30年以内に1%未満」とされていました。それを考えると、南海トラフ地震は「いつ起きてもおかしくない」と言えます。

大分市における南海トラフ地震の想定震度は「6強」、津波の高さは「約9m」、到達時間は「約46分」とされています。

当院の外来棟は震度7にも耐えうる構造であり、さらに海抜32mの高台に位置しています。そのため、建物の倒壊や津波による浸水の心配はほとんどありません。
ただし、どの建物にも言えることですが、「内装（天井・棚・照明・ガラスなど）」には一部被害が生じる可能性があります。

そのため 緊急地震速報（強い揺れの数秒～数十秒前に通知される）が鳴った時点で、次の“命を守る行動”を取ってください。
①倒れてくる物・割れ物から離れる
②机の下や、物が落ちてこない場所に身を隠す
③枕やバッグなどで頭を守る
そして 揺れが完全に収まるまで、その姿勢を維持してください。
揺れが収まった後は、職員が安全を確認しながら指示を行いますので、慌てず落ち着いて行動してください。

当院は、これからも継続して訓練を実施し、患者さんと職員の安全を第一に、災害時でも安心して医療を受けていただける体制づくりに努めてまいります。

地域活動

令和7年8月9日(土)、病院の近くにある「冬田八幡社」の清掃活動を行いました。お盆前のこの時期に毎年行っている活動です。13名の職員が参加しました。

ここ数年は、天気が心配されても前日までには晴れ予報に変わっている、というパターンが続いていましたが、今回は数日前から雨。当日も朝から雨。夕方の予報も雨で、さすがに今回は雨かな…と傘を持参して集合しましたが、実施時間の16時には雨が上がり、この時期とは思えないほど涼しい中で実施することができました。

雨が上がったおかげで、社殿内の掃除だけでなく、本殿までの道の掃き掃除や草とりも行うことができました。綺麗になっていく様子を目にして嬉しくなる時間でした。

作業療法士　やまもと





新　任　紹　介

毎週金曜日に診療を担当する先生です

精神科医師　　こうの先生

この度ご縁をいただき、4月から週１回金曜日に勤務させていただくことになりました。こうのと申します。普段は出身大学である大分大学病院にて精神科診療に従事しております。

精神科医としてはまだまだ勉強中の身で、日々試行錯誤の連続ではありますが、その分患者様に丁寧に向き合うことを大切にできたらと考えております。

新しい環境に不安と緊張でいっぱいでしたが、皆さまの温かい雰囲気に支えられ、安心して診療に取り組むことができております。

限られた勤務日ではございますが、少しでもお力になれるよう努めてまいります。

地域での生活を見据えて多職種で支えるチーム医療の一員として関わらせていただくことを大変嬉しく思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

丘の上JAZZコンサート

第18回ジャズコンサートは、晴天にも恵まれ、自然や街並みを一望できる心地よい雰囲気の中で開催されました。会場には穏やかな空気が流れ、患者さんも開催前から楽しみにされている様子が見られました。

ギタリストの岩見淳三さんによる優しく心地よい音色と、ＹＡＹＯＩさんの力強く温かみのある歌声に、多くの方が魅了されていました。また第2部では、「ビバピアノ」さんのピアノや、院長、副院長による歌声も披露され、普段とは違う一面に患者さんから自然と笑顔が見られていました。

恒例となっている「丘の上合唱団」とＹＡＹＯＩさんとのコラボレーションでは、会場全体が一体となって盛り上がり、手拍子をされる方や笑顔で歌を口ずさむ方の姿もみられました。知っている曲が流れると、目を閉じて身体を左右に揺らしながら聴き入る患者さんの姿も印象的でした。

心地よい音色と歌声に包まれた、心温まるひとときとなり、患者さんにとっても職員にとっても思い出に残るコンサートとなりました。





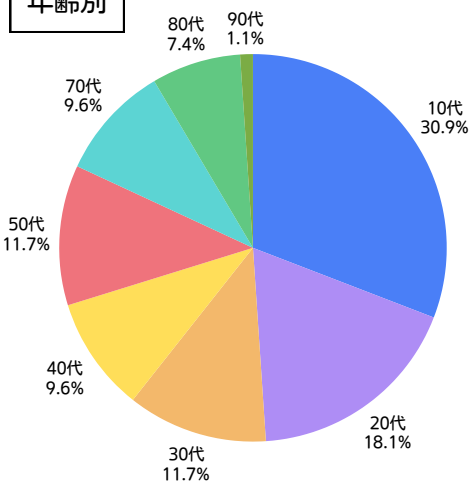
「ビバピアノ」
YouTube　登録はこちら

看護師　あかみね

治療実績（2025年度）

①新患
年間：480名（男性196名、女性284名）※６ヶ月以上受診をしていない再診察の方も含む

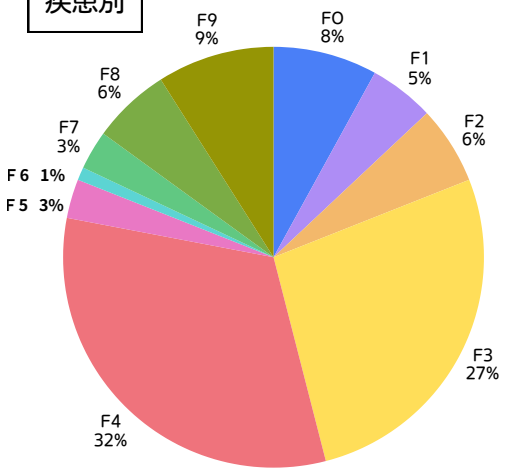
年齢別



新患の年齢は
10～20代までで220名（46%）
30代を入れると271名（57%）
を占めます

10代の紹介が多いです

疾患別



F0　症状性を含む器質性精神障害
（認知症など）
F1　精神作用物質の使用により
精神及び行動の障害
F2　統合失調症、統合失調症障害
及び妄想障害
F3　気分（感情）障害
（うつ病、躁病、躁うつ病）
F4　神経症性障害、ストレス関連障害
及び身体表現障害
（不安障害、強迫性障害、適応障害など）
F5　生理的障害及び身体的要因
関連した行動症候群（摂食障害など）
F6　成人の人格及び行動の障害
（人格障害など）
F7　知的障害
F8　心理的発達の障害
（自閉症、学習障害など）
F9　小児（児童）期及び、青年期に
通常発症する行動及び情緒の障害
（多動性障害など）

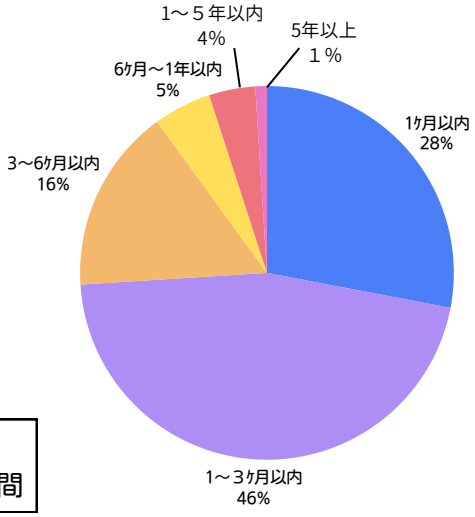
Ｆ３、Ｆ４の疾患で受診する患者が全体の６割を占めます

発達障害（ＡＤＨＤ、自閉症スペクトラム障害、学習障害）、適応障害の受診が多くなっています

①年間入退院数、平均在院日数
年間入院数　：３２９名
年間退院数　：３２５名
平均在院日数：１３６.３日

325名中、３ヶ月以内に239名（74%）が退院し、
6カ月以内に292名（90%）の患者が退院しています

1年以上の長期入院患者（15名）も退院支援で自宅や施設に退院をしています



年間退院者
325名の入院期間

病院までのご案内

- 大分駅より
車で約25分（米良バイパスが近道）
- 大分自動車道米良インターより
車で約10分
- 豊肥本線「中判田駅」より
車で約5分



発　行

医療法人善慈会　大分丘の上病院
理事長・院長　帆秋善生

〒879-7501　大分市大字竹中1403
TEL　097-597-3660
FAX　097-597-3657
HP　http://okanoue-hospital.com/